

日本初の有料道路が 明和町にあった!

県道37号鳥羽松阪線は、町の南部を東西に横断し、たくさんの人が通勤や買い物などに車で利用する大切な主要幹線道路です。

この道路は、戦前に伊勢電気鉄道が電車の線路として整備した部分の内、松阪市早馬瀬町の櫛田橋東詰から伊勢市川端町の度会橋西詰までの約10.6kmを、昭和28年(1953)の第59回の伊勢神宮式年遷宮に合わせて廃線跡を参宮有料道路として整備したもので、昭和27年(1952)12月1日の開通時には、日本で初めての有料道路でした。当時、小型自動車130円、タクシー・トラック180円、オートバイ60円、自転車40円でした。

その後、昭和42年(1967)3月の無料化に伴い国道23号となりました。昭和50年(1975)10月には、明和町北部の海岸側に南勢バイパスが開通し、こちらが国道23号となったため、現在の県道となりました。



昭和36年頃、かつて線路だった直線の道路が
まっすぐ伸びている(国土地理院提供)

キーワード：交通、鉄道、道路、有料道路